地域医療の橋わたし

WE LOVE ちいき

July 2023
地域医療支援学レター vol. 44

CONTENTS

- 活動報告
- セミナー報告
  リレートーク第44回
- 多職種チームで取り組む
  オールマイティな地域精神科病院
  社会医療法人清和会　西川病院
  院長　松本 貴久 先生

島根大学医学部 地域医療支援学講座

ACTIVITY REPORT

活動報告

令和5年4月4日(火)17:30～19:00

令和5年度地域枠等特別選抜枠 新入生説明会・意見交換会

【場　所】国際交流ラウンジ
【参加者】54名(学生30名)

4年振りに地域枠等特別選抜枠の新入生説明会・意見交換会を、全面対面で開催することができた。

ご臨席頂いた医学部長の鬼形先生は「学生の皆さんを支援することを約束する」と述べられ、「何故ここにいるのか、また自分の立ち位置を確認しながら、社会からの期待にどう応えるか考えてほしい。医学の勉強だけでなくいろいろなことに挑戦してほしい。」とメッセージを贈られた。病院長の椎名先生からは「志は高くなくても、一度決めたことから退くことなく頑張って欲しい。」とメッセージが贈られた。島根県健康福祉部の安食部長からは「入学時の志をしっかり胸に留めて、有意義な学生生活を送ってほしい。将来島根県の医療の担い手となる皆さんには、県民の期待が寄せられている。」とメッセージが贈られた。

真新しいスーツに身を包んだ新入生たちも緊張した面持ちながら登壇し、頂いたメッセージに応えるかのように一人ひとりがしっかりと抱負を述べ、決意を新たにした。続いて、先輩になった2年生から最上級生の6年生まで総勢9名から、自分たちの経験を振り返って、温かいエールが贈られた。

卒後共に島根の医療を担う21名の同期と同じ立場の先輩学生、そして支援する側が一堂に会し、顔の見える繋がりの第1歩をしるすことができた。

令和5年5月13日(土)、14日(日)

第14回プライマリ・ケア連合学会学術大会 学生参加支援

【場　所】ボートメッセなごや

島根大学医学科4年　大井 礼美さん

課外活動として行っている学生オンラインコミュニティに関する報告を行った。

様々な人との対話から、医療を暮らしという側面から捉えることの重要性に気づかされた。それは、1年次より授業や地域医療実習で学んだことを、課外活動を通して、仲間と行動を起こしてきたことに他ならない。そのような体験を通して知識が有用なものになり、そこからさまざまなフィードバックを受けた。学会報告もますます学業へのモチベーションに繋がるものとなった。

島根大学医学科4年　竹内 啓悟さん

口演発表を通じて"多くの先生方からフィードバックをいただく機会"は研究のブラッシュアップに必須だと実感した。質問を元により良い論文執筆へ繋げたい。また、お会いした先生方との会話を通じ、多忙で医学偏重になりがちな医師こそ自分が診る地域住民の暮らしを知ることが大切だと考えた。今後は積極的に学外の人とも関わりたい。

初めての学会は、総合診療マインドをはじめ自分を大きく成長させる最高の経験になった。

令和5年5月15日(月)17:00～18:00

医学科1年生キャリアガイダンス

【場　所】医学図書館3階視聴覚室
【主　催】しまね地域医療支援センター
【参加者】学生19名

地域枠等特別選抜枠の新入生を対象に、佐野教授から「医師になるまでの流れ-入門編-」として、6年間のカリキュラム、臨床・専門研修、留年、クリクラ等について説明があり、続いてセンターの児玉事務局長から、キャリア形成プログラムについて説明が行われた。

若手医師からの報告では、卒後4年目の膠原病内科 高野育子医師より、学生時代の思い出や臨床研修病院の選択ポイント、現在の膠原病内科に進んだ決め手等、転機時の決断を詳しくお話し頂いた。

更に、「低学年だから何もできないのではなく、①早くから地域医療に触れる機会をもつ。②医師の視点ではなく患者さん目線で医療をとらえてみる。③医師と協働するコメディカルの存在を知る。」と、地域医療実習での学びの視点や有用性をお話し頂いた。「出会いは一生ものである。応援している。」とエールが贈られた。

令和5年5月30日(火)18:00～19:00

地域医療体験実習(フレキシブル実習)＆第14回プライマリ・ケア学会学術大会報告会

【場　所】みらい棟1階みらいラウンジ
【参加者】学生4名　教員3名

令和4年12月から令和5年5月まで地域医療体験実習Ⅱ(フレキシブル実習)に参加した学生は延べ7名、第14回プライマリ・ケア学会学術大会参加支援学生は5名であった。

臨床実習や個人的事情で参加できない学生は別日に個別報告とした。

最初に佐野教授より、振り返りの意味として「経験の共有」についてお話があった。

報告は2題で、1題は昨年の夏から同じ地域での継続的な実習を重ねた3名の学生が、その学びを学会で報告した。もう1題は総合診療科での研究室配属で1年弱ブラッシュアップした臨床研究を発表したものである。

今回は振り返りを行うタイミングが学会直後で、記憶も鮮明であり、一人ひとりの学生が充実感と共に大きな刺激を受けて、今後の活動に繋がる知見やモチベーションを得たようである。

令和5年6月3日(土)13:30～17:30

令和5年度 第1回しまね総合診療の集い

【場　所】みらい棟4階ギャラクシー
【参加者】対面37名　Web20名

第1部は、上村祐介・上野伸行先生が「地域志向のアプローチって何だろう?」をテーマに担当された。まず、事前レクチャーと症例提示が行われた。その後グループワークで症例の問題点に対して、どのようなアプローチが必要か、ディスカッションが行われた。地域志向性プライマリ・ケアを学び、グループワークを通して「地域をみるとは何か」を深めることが出来た。

第2部は「指導医による明日から使えるパール」をテーマに5名の先生方(加藤一郎・岡本栄祐・樋口 大・木島庸貴・高橋賢史先生)に、総合診療医として奏功した症例を発表して頂いた。臨床では指導医からのちょっとしたヒントが、適切な診断や治療に結びつくことがしばしばある。豊富な臨床経験から生まれた貴重な情報は、専攻医や研修医にとって今後の診療に大いに役立つものになるのではないかと感じた。

セミナー報告

SEMINAR REPORT

地域医療Webinar

『地域ではたらくこと』あなたの疑問に答えます!

【実施日】令和5年4月24日(月)18:00～19:00
【講　師】浜田市国民健康保険 あさひ診療所
所長　上野 伸行先生
【参加者】18名

概　要

先生には「地域で働くこと」と題してお話し頂いた。

症例紹介では、診断過程のみならず、患者家族の思いや希望を尊重した医療者の姿勢を丁寧に説明された。参加学生は学年の幅があったが、先生のお話には医師を志した学生達の経験や思いに照らし見えてくる光景があり、学生の胸に届いているように感じた。

終了後は学生からの質問が相次いだ。その回答で印象に残ったのは、「医師として一番大事なのは患者さんに接する態度であり、信頼関係の獲得につながる。患者さんの多くは人生の先輩である。学生時代から尊敬の念をもって意識して向き合わなければ、すぐに身につくものではない。また、不安や悩みに寄り添い共に考えることが患者さんの幸せに繋がり、患者さんはその医師の姿勢に救われる。」という言葉であった。

実践家であるからこそ、経験から発せられるメッセージであった。

開業医の多様性と人生設計

【実施日】令和5年5月19日(金)18:00～19:00
【講　師】大学前のつ内科クリニック
理事長　野津 和巳先生
【参加者】17名

概　要

先生はこれまで、学生や研修医の指導をされてきた経験から、紹介状で医師の力量やセンスがわかると話された。また、医師になると頭が高くなりがちであると指摘された。守るべきこととして「リスペクト精神」、心がけることとして「丁寧な言葉遣い」をお教えいただいた。

CPPCという病理解剖のカンファレンスがあるが、これを応用してConcentration(集中する)Preparation(診察するための準備、勉強をする) Performance(患者さんを診る) Confidence(信頼)を診察の場でも意識することとしてお教えいただいた。

先生は15年毎に大学、総合病院、開業医と転機を迎えておられる。「学生の皆さんにとって、15年後はなかなか想像しにくい未来ではあるがやり残しはないか、この道でよいかを問いながら、たくさんの経験をして、社会貢献をしてほしい」と、学生にエールを贈られた。

地域医療・感染症セミナー

外科患者の感染症～術後発熱の診かた・考え方～

【実施日】令和5年6月1日(木)18:00～19:00
【講　師】愛知県がんセンター 感染症内科部
医長　伊東 直哉先生
【参加者】27名

概　要

先生はレクチャーを質問形式で進められ、参加者がスマートフォンから回答すると、リアルタイムに回答率が表示された。外科患者の感染症について、16の質問をはさみながら、「手術～術後48時間」「術後2～7日」「術後1～4週」「術後1か月以上」での発熱の特徴や特に注意しなければならないポイントを文献や症例を示し、エビデンスに基づいて端的に分かりやすく教授頂いた。間には「経鼻胃管は副鼻腔炎のリスク」「胃管?如何」と、若干それまでのスマートさからは引くジョークも取り入れられ、楽しく学びの多いセミナーであった。

最後にtake-home messageとして、外科患者の発熱診断アプローチを「術後の自然経過を知る」+「所見を大切にする」+「正しいアプローチ法で考える」と贈られた。そして、「外科患者の発熱の診断は市中感染よりも簡単!」とまとめられた。

Career Webinar

新年度のチャレンジ!

【実施日】令和5年4月21日(金)12:15～12:45
【講　師】島根大学医学部附属病院総合診療医センター
助教　坂口 公太先生
【参加者】53名

概　要

先生の学生人気は高く、開催前から申し込み多数で期待度の高いセミナーであった。先生は大学卒業後、沖縄県で初期臨床研修を開始され、医療の現実を目の当たりにされた。ロールモデルとなるような恩師に出会い、診察室だけではない地域全体を通した医療を目指し総合診療の道を歩まれた。島根県では雲南市立病院で専門研修を行い、様々な縁に結ばれ現職に就かれている。

思いついたらすぐ行動することの重要性を説かれ「明日やろうは馬鹿野郎」と熱いメッセージを贈られた。会場にもマイクを向けられ、冗談やツッコミも交えながらあっという間の30分であった。これまでのキャリアで失敗も経験したが、自分主体で解決へと導くことで、『新たな景色が見え、視座が高まった』と話された。

学生たちは心新たにチャレンジへの道を踏み出したことであろう。

循環器内科、留学の魅力

【実施日】令和5年5月9日(火)12:15～12:45
【講　師】島根大学医学部循環器内科学講座
助教　佐藤 寛大先生
【参加者】22名

概　要

スライドにはタイトル通りその魅力を伝える多数の写真や動画が掲載され、且つパッション溢れる先生の語り口に、多くの学生が魅了されたと思われる。

先生は、「循環器内科の魅力」を次の4点にまとめられた。①様々な疾患を診断から治療まで幅広く、急性期から慢性期の患者まで対応する。②それぞれの領域でspecialistがいて、自分達のLifestyleに合わせた専門領域を選べる。③治療に対する反応もダイナミックでやりがいを感じる。④大学医局は安全基地である(田邊教授の言葉)。長渕剛のガンジスから「旅をするのは帰る家があるからだ」を引用され、学位取得を含め、学んできたことをフィードバックできる医局のメリットを語られた。

続いて留学の魅力を、「①業績はもちろんであるが、素晴らしい人との出会い ②これまで体験したことのない、未知の素晴らしい経験ができる」とまとめられた。

第44回 リレートーク

TITLE |多職種チームで取り組む オールマイティな地域精神科病院

社会医療法人清和会　西川病院

院長
松本 貴久 先生

当院は本年開設70周年を迎えた、島根県最大規模の病床数402床を有する、浜田圏域における地域中核精神科病院です。思春期から超高齢者、軽症のメンタルヘルス問題から最重度の精神障害、精神科救急から社会復帰支援までの精神科医療の幅広い領域に対応し、認知症疾患医療センター、依存症治療拠点機関（アルコール健康障害）にも指定されています。法人としては福祉や就労支援までカバーして、浜田市障がい者基幹相談支援センターや住まいのサポートセンターの運営を委託されております。S･IPS個別就労支援チームは精神神経学会から2021年度精神医療奨励賞を受賞しました。浜田市駅前にはサテライトクリニックのこころクリニックせいわを開設し、病院近接地に訪問看護ステーション浜田も併設しています。多職種チームで地域内完結の精神科医療を目指しています。

学生実習としては、2022年から多職種の学生が同時期に実習するタイミングで、クリニカルIPEという多職種チーム医療を多職種学生が共に学んで養う体験学習型のカリキュラムを取り入れています。学生の皆様のみならず、研修医の皆様も多職種チーム医療の醍醐味を当院で体験しませんか？

社会医療法人清和会　西川病院
〒697－0052 島根県浜田市港町293－2
TEL (0855)22-2390　FAX (0855)22-3680

プライマリ・ケア学会に参加して

医学科3年 藤澤 舞さん　篠田 航平さん　新城 圭史朗さん

5月13日から14日にかけて、私たちは名古屋で開催された第14回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会に参加した。会場となったポートメッセなごやは広く開放的な空間で、大きな会場のあちこちで様々な発表や展示が行われていた。

今回私たちは初めて学生セッションにてポスター発表を行った。ポスターのテーマは「医学生が主体的・継続的に学ぶ地域医療実習」とし、昨年度行ったさざんか祭りへの展示出展や波佐小学校での健康教室などについて活動報告を行った。発表中は上手く喋れなかった部分もあり少し悔いが残ったが、活動を経て学んだことをポスター形式にまとめて発表するという行いはとても良い経験になった。

他の学生の発表や様々なテーマで行われる学習講演やシンポジウムなどを現地で視聴することが出来たことも大変勉強になった。学会を通じて得られたものを島根に持ち返り、今後の活動に活かしていきたいと思う。また機会があれば発表にも再度挑戦してみたい。

今後の予定

Career Webinar

令和５年7月10日（月）12：15～12：45
講師：園山 陽子 先生
島根大学医学部放射線医学講座 放射線治療科　助教

令和５年９月予定
講師：日髙 匡章 先生
島根大学医学部消化器・総合外科学講座　教授

令和５年10月予定
講師：林田 健志 先生
島根大学医学部形成外科　准教授

地域医療Webinar

令和５年7月12日（水）18：00～19：00
講師：平原 佐斗司 先生
東京ふれあい医療生活協同組合 研修・研究センター　センター長

令和５年10月予定
講師：岡田 唯男 先生
亀田ファミリークリニック館山　院長

地域医療を守り育てる住民活動2023in島根

令和５年7月1日（土）13：30～16：45
会場：出雲ロイヤルホテル

えんネット交流会

令和５年7月31日（月）18：00～19：00

令和５年度第2回しまね総合診療の集い

令和5年8月予定

地域医療体験実習Ⅰ（夏季地域医療実習）

令和5年8月21日（月）～25日（金）

島根県知事表敬訪問 松江市立・松江生協・松江赤十字病院見学バスツアー

令和5年8月28日（月）

ワークライフバランスセミナー

令和５年9月27日（水）18：00～19：00
講師：北 奈央子　株式会社ジョコネ代表

令和５年度第3回しまね総合診療の集い

令和5年9月30日（土）予定

編集後記

レターをお読みいただきありがとうございます。

レターのキーカラーは、「活色（かついろ）」です。日本の伝統的な青で、陽光が降り注ぐ浅い夏の海をイメージさせる清々しい色です。また、お祭りの法被や、ラムネ、カキ氷の暖簾の色でもあります。

5月8日以降、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが５類になりました。感染対策は個人の判断が基本とされていますが、マスクを外して祭りを楽しむ声等、久々に活気を取り戻す夏になりそうです。元気に夏を乗り切りましょう。

島根大学医学部
地域医療支援学講座
ホームページはこちらから ➡

発行/島根大学医学部地域医療支援学講座　〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89-1　[TEL]0853-20-2558　[FAX]0853-20-2563　[E-mail]career@med.shimane-u.ac.jp